



\*\*2021年 3月(第6版)  
\*2017年 1月(第5版)

医療機器認証番号:226ABBZX00102000

歯科材料 05 歯科用接着充填材料  
管理医療機器 歯科用コンポジットレジンセメント 70837002

## パナビア® V5 ペースト

ミキシングチップ、ガイドチップ及びデスポ小筆ブラシの再使用禁止

### 【禁忌・禁止】

- 本品又はメタクリル酸系モノマーに対して発疹、皮膚炎等の過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。
- 使用時の感染防止のため、ミキシングチップ、ガイドチップ及びデスポ小筆ブラシの患者間での交差使用を避け、使用後は廃棄すること。

### 【形状・構造及び原理等】

構成成分	形状	組成
Aペースト	ペースト	モノマー(Bis-GMA、TEGDMA、その他のメタクリル酸系モノマー)、フィラー(表面処理バリウムガラス、表面処理フルオロアルミノシリケートガラス、シリカ系マイクロフィラー)、化学重合開始剤、重合促進剤、その他
Bペースト	ペースト	モノマー(Bis-GMA、その他のメタクリル酸系モノマー)、フィラー(表面処理バリウムガラス、表面処理アルミナ系マイクロフィラー)、光重合触媒、重合促進剤、着色剤、その他

色調:ユニバーサル、クリア、ブラウン、ブリーチ、オペーク

### 【付属品】

ミキシングチップ(合着用)、ミキシングチップ(エンド用)、ガイドチップ(エンド用細)、小筆ホルダー、デスポ小筆ブラシ

本品に同梱されている構成成分についてはパッケージの記載をご参照ください。

### 【作動・動作原理等】

パナビア® V5 ペースト

ユニバーサル、クリア、ブラウン、ブリーチ

(JIS T 6611 タイプ2 デュアルキュア型)

デュアルキュア型の硬化特性を有し、可視光線光エネルギーによる光重合反応及び過酸化剤と還元剤による化学重合反応により硬化します。

オペーク(JIS T 6611 タイプ2 化学重合型)

過酸化剤と還元剤による化学重合反応により硬化します。ただし、最表層については、可視光線光エネルギーによる光重合反応によっても光硬化します。

### 【使用目的又は効果】

#### 【使用目的】

歯科修復物・歯科修復材・歯科装置・口腔内硬組織のいずれかの相互間の接着に用いる。

#### 【使用用途】

- 1) クラウン、ブリッジ、インレー、アンレーの接着
- 2) ラミネートベニアの接着
- 3) 接着ブリッジ、接着スプリントの接着
- 4) インプラントアバットメント又はフレーム上への補綴物の接着
- 5) コア、ポストの接着
- 6) 接着アマルガム修復

#### 【使用方法等】

##### \*\*併用する材料について

本品と併用する材料は次のとおりです。  
使用方法については、下記製品の添付文書にしたがってください。

##### (1) 歯科用色調適合確認材料

「パナビア® V5 トライイン ペースト」(医療機器認証番号: 226ABBZX00103000)

##### (2) 表面硬化保護材

歯科接着・充填材料用表面硬化保護材(例えば「オキシガード® II」)

##### (3) リン酸エッチング材

歯科用エッチング材(例えば「K エッチャント シリンジ」)

##### (4) セラミックス処理材

歯科セラミックス用接着材料(例えば「クリアフィル® セラミック プライマー プラス」)

##### (5) 金属接着性プライマー

歯科金属用接着材料(例えば「クリアフィル® セラミック プライマー プラス」又は貴金属に対して高い接着力を求める場合には「アロイプライマー」(医療機器認証番号:20900BZZ00723000))

##### (6) 歯面処理材

「パナビア® V5 トゥース プライマー」(医療機器認証番号: 226ABBZX00104000) 又は医薬品含有歯面処理材「ADジェル」(医療機器承認番号:20500BZZ01050000)

##### (7) ポスト

歯科根管用ポスト成形品(例えば「クリアフィル® AD ファイバーポスト II」)

##### (8) 支台築造用コンポジットレジン

歯科用支台築造材料(例えば「クリアフィル® DCコア オートミックス® ONE」)

##### (9) 清掃材

歯科セラミックス用接着材料「カタナ® クリーナー」  
(医療機器認証番号:301ABBZX00015000)

#### 歯科重合用光照射器について

本品の重合で使用する歯科重合用光照射器は以下のとおりです。

- ・LED照射器:光源が青色LEDで発光スペクトルのピークトップが450~480nm
- ・ハロゲン照射器:有効波長域が400~515nm

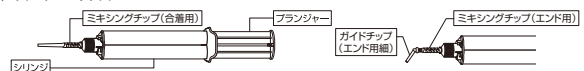
本品への照射時間は下表のとおりです。光量については各照射器の添付文書又は取扱説明書等を確認してください。

本品の使用前に下表を参考に、使用する照射器で練和したペーストに光照射して硬化時間等を確認してください。

分類	光源	光量	照射時間
高出力LED照射器	青色LED	1500mW/cm <sup>2</sup> 以上	(3秒又は5秒) ×2回
LED照射器		800~1400mW/cm <sup>2</sup>	
ハロゲン照射器	ハロゲンランプ	400mW/cm <sup>2</sup> 以上	10秒

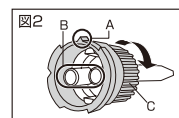
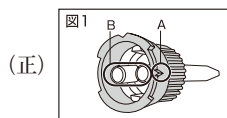
#### シリンジ及び付属品の準備

##### 1) 各部の名称



##### 2) ミキシングチップの準備

ミキシングチップを装着させる時は、必ずAとBが図1の位置にあることを確認してから、ご使用ください。Aが図2のように回転している場合はミキシングチップとシリンジが正しく装着できません。Cの部分回転させて、Aを図1の位置に戻してからご使用ください。

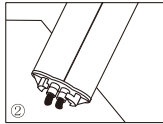


##### 3) ミキシングチップの装着

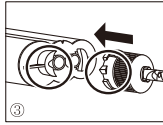
- ① キャップを反時計回りに1/4回転してキャップの突起部とシリンジの溝を合わせ、根元を持って下方に折るように取り外します。



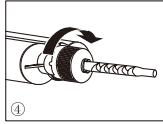
②少量ペーストを押し出し、均等に出ることを確認します。また、2回目以降ご使用になる際も、同様にご確認ください。均一に出ていない場合、硬化不良を起こす場合があります。



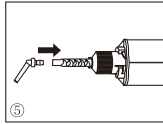
③ミキシングチップをシリンジの溝に合わせて奥まで押し込みます。



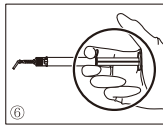
④ミキシングチップを時計回りに1/4回転させて確実に装着します。



⑤ミキシングチップ(エンド用)を用いる場合、ミキシングチップ(エンド用)の先端にガイドチップを音がするまで押し込み、確実に装着します。



⑥親指の付け根でプランジャーを操作してペーストを押し出します。



#### 使用方法A

下記用途での使用方法です。

- 1) クラウン、ブリッジ、インレー、アンレーの接着
- 2) ラミネートベニアの接着
- 3) 接着ブリッジ、接着スプリントの接着

#### \*\* (1) 補綴物の試適

- ① 通法にしたがい仮封材・仮着材を除去し、窩洞、支台歯の清掃、防湿を行います。[仮封材・仮着材の残留物の除去及び清掃を目的として、清掃材を添付文書にしたがい適用することも可能です。]
- ② 補綴物を試適し、窩洞、支台歯との適合性を確認します。
- ③ 必要に応じて、補綴物の被着面に色調を選択した「パナビア® V5 トライイン ペースト」を添付文書にしたがい塗布し試適します。マージン部から溢れた余剰のペーストはティッシュ小筆ブラシ等で除去します。「パナビア® V5 トライイン ペースト」の色調は本品の硬化後の色調に対応しています。色調を確認した後、補綴物を取り外し、補綴物及び歯面に付着しているペーストを水洗により完全に除去します。

#### (2) 補綴物の前処理

補綴物の添付文書にしたがい、前処理します。補綴物による指定がない場合は、下記の方法を推奨します。

#### \*\* 被着面が金属の場合

- ① 30~50 $\mu$ mのアルミナ粒子を用いて0.3~0.4MPa(3~4kgf/cm<sup>2</sup>)の空気圧でサンドブラスト処理を行い、被着面を粗造化します。その後、超音波洗浄を2分行い、エアブローで乾燥します。
- ② 金属接着性プライマーを添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。[サンドブラスト処理後に試適された場合には、汚染された被着面の清掃を目的として、「カタナ® クリーナー」を添付文書にしたがい適用してください。]

#### \*\* 被着面がジルコニア(例えば「リタケカタナジルコニア」)/アルミナ等の金属酸化物系セラミックスの場合

- ① 30~50 $\mu$ mのアルミナ粒子を用いて0.3~0.4MPa(3~4kgf/cm<sup>2</sup>)の空気圧でサンドブラスト処理を行い、被着面を粗造化します。その後、超音波洗浄を2分行い、エアブローで乾燥します。[サンドブラスト処理後に試適された場合には、汚染された被着面の清掃を目的として、「カタナ® クリーナー」を添付文書にしたがい適用することも可能です。]
- ② セラミックス処理材を添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。

#### \*\* 被着面がシリカ系ガラスセラミックス、歯科用陶材(例えば「リタケスーパーポーセレンAAA」)の場合

- ① リン酸エッチング材を被着面に塗布して5秒処理後、水洗・乾燥を行います。[汚染された被着面の清掃を目的として、リン酸エッチング材の代わりに「カタナ® クリーナー」を添付文書にしたがい適用することも可能です。]

② セラミックス処理材を添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。[必要に応じてリン酸エッチング処理又は「カタナ® クリーナー」処理の前に30~50 $\mu$ mのアルミナ粒子を用いて0.1~0.2MPa(1~2kgf/cm<sup>2</sup>)の空気圧でサンドブラスト処理を行い、被着面を粗造化します。空気圧は補綴物の材質及び形状に応じて、チッピングに注意しながら適宜調節してください。その後、超音波洗浄を2分行い、エアブローで乾燥します。]

#### \*\* 被着面が無機物フィラーを含むレジン系材料(例えば「カタナ® アベンシア® ブロック 2」)の場合

- ① 30~50 $\mu$ mのアルミナ粒子を用いて0.1~0.2MPa(1~2kgf/cm<sup>2</sup>)の空気圧でサンドブラスト処理を行い、被着面を粗造化します。空気圧は補綴物の材質及び形状に応じて、チッピングに注意しながら適宜調節してください。その後、超音波洗浄を2分行い、エアブローで乾燥します。
- ② リン酸エッチング材を被着面に塗布して5秒処理後、水洗・乾燥を行います。[汚染された被着面の清掃を目的として、リン酸エッチング材の代わりに「カタナ® クリーナー」を添付文書にしたがい適用することも可能です。]
- ③ セラミックス処理材を添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。

#### (3) 窩洞・支台歯の前処理

- ① 必要に応じて以下の処理を行います。  
未切削のエナメル質への接着の場合や、ラミネートベニア、接着ブリッジ等エナメル質に接着の維持を求める場合  
エナメル質にリン酸エッチング材を被着面に塗布して10秒処理後、水洗・乾燥を行います。但し、生活歯の象牙質にリン酸エッチング処理は行わないでください。  
(試適等によって汚染された場合には、リン酸エッチング処理の前に、通法、もしくは、清掃材を添付文書にしたがい適用し、清掃してください。)
- ② 「パナビア® V5 トゥース プライマー」を添付文書にしたがい窩洞又は支台歯に塗布して20秒処理後、乾燥します。

#### (4) シリンジ及び付属品の準備

「シリンジ及び付属品の準備」にしたがい、シリンジ及び付属品を準備します。

#### (5) ペーストの練和及び塗布

シリンジのプランジャーを押し、セメントを押し出し、気泡を巻き込まないよう被着面全体もしくは窩洞内に塗布します。セメントを窩洞内に塗布した場合は、60秒以内に下記(6)の操作を行ってください。

#### (6) 補綴物の装着

補綴物を窩洞・支台歯に装着します。

#### (7) 余剰セメントの除去及び最終硬化

##### (7)-1 ユニバーサル、クリア、ブラウン、プリーチの場合

① 下記のいずれかの方法で余剰セメントを除去します。

##### 光照射によって半硬化させ、除去する方法

余剰セメントに1ヶ所につき3~5秒光照射を行った後、補綴物が動かないように押さえながら半硬化した余剰セメントを探针等で除去します。なお、照射時間は照射器の種類や光量により異なるため、練和したセメントに光照射して事前に確認してから、適宜調節してください。

##### 小筆等により除去する方法

余剰セメントを小筆等で除去します。マージン部1ヶ所に対して「歯科重合用光照射器について」を参考に照射し、セメント表面を光硬化させます。(マージン部は、表面硬化保護材を添付文書にしたがい適用して硬化させることも可能です。)

② 下記のいずれかの方法でセメントを最終硬化させます。

##### 光を透過しない補綴物の場合

装着後、3分保持し、セメント内部を化学硬化させます。

##### 光を透過する補綴物の場合

「歯科重合用光照射器について」を参考にマージン部を含む補綴物全体に光照射を行います。1回の光照射で、硬化させる部位全てが照射径に入らない場合は、光照射を繰り返して全ての部位に対して光照射を行ってください。

(7)-2 オペークの場合

- ① 余剰セメントを小筆等で除去します。オペークは余剰セメントを光照射によって半硬化させて除去することはできません。
- ② マージン部1ヶ所に対して「歯科重合用光照射器について」を参考にして照射し、セメント表面を光硬化させます。さらに3分保持し、セメント内部を化学硬化させます。(マージン部は、表面硬化保護材を添付文書にしたがい適用して硬化させることも可能です。)

[操作時間、硬化時間について(使用方法A)]

「パナビア® V5 ペースト」の操作時間、硬化時間は周囲の環境や温度により異なります。温度による操作時間、硬化時間の目安は下表のとおりです。

操作時間(23℃)	2分
「パナビア® V5 トゥース プライマー」と接触した場合の操作時間(37℃)	60秒
余剰セメントの除去 光照射によって半硬化させ、除去する方法	3~5秒
最終硬化	
光照射による方法	10秒 <sup>1)</sup>
化学硬化による方法(37℃)	3分

1) 光量800~1400mW/cm<sup>2</sup>のLED照射器を使用した場合

使用方法B

下記用途での使用方法です。

4) インプラントアパットメント又はフレーム上への補綴物の接着

(1) 補綴物の試適及び前処理

「使用方法A(1)、(2)」にしたがい、補綴物の試適及び前処理を行います。

(2) インプラントアパットメント又はフレームの前処理

インプラントアパットメント、フレームの材質に応じて、金属接着性プライマー又はセラミックス処理材を添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。

(3) ペーストの練和及び塗布

「使用方法A(4)、(5)」にしたがい、セメントを被着面に塗布します。

(4) 補綴物の装着

補綴物をインプラントアパットメント又はフレームに装着します。

(5) 余剰セメントの除去及び最終硬化

(5)-1 ユニバーサル、クリア、ブラウン、ブリーチの場合

- ① 「使用方法A(7)-1 ①」にしたがい、余剰セメントを除去します。
- ② 下記のいずれかの方法で最終硬化させます。  
光を透過しない補綴物の場合  
装着後、下表を参考に保持し、セメント内部を化学硬化させます。

化学硬化で硬化させる場合の保持時間	37℃	5分
	23℃	10分

光を透過する補綴物の場合

「歯科重合用光照射器について」を参考にしてマージン部を含む補綴物全体に光照射を行います。1回の光照射で、硬化させる部位全てが照射径に入らない場合は、光照射を繰り返して全ての部位に対して光照射を行ってください。

(5)-2 オペークの場合

- ① 余剰セメントを小筆等で除去します。オペークは余剰セメントを光照射によって半硬化させて除去することはできません。
- ② マージン部1ヶ所に対して「歯科重合用光照射器について」を参考にして照射し、セメント表面を光硬化させます。さらに(5)-1の表を参考に保持し、セメント内部を化学硬化させます。(マージン部は、表面硬化保護材を添付文書にしたがい適用して硬化させることも可能です。)

使用方法C

下記用途での使用方法です。

5) コア、ポストの接着

(1) 築造窩洞の形成、コア又はポストの試適

- ① 通法にしたがい根管形成、根管充填を行った後、築造窩洞を形成します。
- ② 形成した築造窩洞にコア又は適切な太さのポストを試適します。ポストの場合は必要に応じて切断してください。
- ③ エタノールを染み込ませたガーゼやワッテ等で汚れを拭き取ります。

(2) コア又はポストの前処理

- ① 「使用方法A(2) 補綴物の前処理」にしたがい、コア又はポストにサンドブラスト処理を行います。「ADポストII」はあらかじめ処理が行われているため必要はありません。また、グラスファイバーポストは損傷を避けるためサンドブラスト処理は行いません。

金属コア、金属ポストの場合

金属接着性プライマーを添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。

\*\*レジンコア、グラスファイバーポストの場合

- ① リン酸エッチング材を添付文書にしたがい塗布し、5秒後に水洗、乾燥します。[汚染された被着面の清掃を目的として、リン酸エッチング材の代わりに「カタナ® クリーナー」を添付文書にしたがい適用することも可能です。]
- ② セラミックス処理材を添付文書にしたがい塗布し、乾燥します。

\*\* (3) 築造窩洞の前処理

- ① 象牙質に高い接着強さを求める場合は、リン酸エッチング材を添付文書にしたがい塗布し、10~30秒後に水洗、乾燥します。さらに「ADゲル」を添付文書にしたがい築造窩洞に塗布し、60秒後に水洗、乾燥します。
- ②③の処理前に浸出液等によって汚染された場合には、清掃材を添付文書にしたがい適用し、清掃することも可能です。
- ③ 「パナビア® V5 トゥース プライマー」を添付文書にしたがい築造窩洞に塗布して20秒処理後、乾燥します。

(4) ペーストの練和及び塗布

「使用方法A(4)、(5)」にしたがい、セメントをコア又はポストの被着面全体に塗布、もしくは築造窩洞内に注入します。セメントを築造窩洞内に注入した場合は、60秒以内に下記(5)の操作を行ってください。

(5) コア又はポストの装着

コア又はポストを手早く築造窩洞に挿入します。この際、築造窩洞内に気泡が入らないようにコア又はポストを軽く揺すりながら挿入します。

(6) 余剰セメントの処置

コアの場合

「使用方法A(7)-1 ①」または「使用方法A(7)-2 ①」にしたがい、余剰セメントを除去します。

ポストの場合

はみ出した余剰セメントを小筆等で残存菌冠やポストのヘッド部に薄く広げます。

(7) 光照射

「歯科重合用光照射器について」にしたがい光照射し、セメントを硬化させます。1回の光照射で、光硬化させる部位全てが照射径に入らない場合は、光照射を繰り返して全ての部位に対して光照射を行ってください。ただし、オペークの場合は、さらに3分保持し、セメント内部を化学硬化させます。

(8) 支台菌形成

コアの場合

支台菌形成はコアの装着から6分以上経過した後、十分に硬化させてから行います。

ポストの場合

- ① 植立後、支台築造用コンポジットレジンで添付文書にしたがい築盛します。
- ② 支台菌形成はポストの植立から6分以上経過した後、十分に硬化させてから行います。

支台菌形成開始(37℃) 装着又は植立から6分以上経過後



## 使用方法D

下記用途での使用方法です。

### 6) 接着アマルガム修復

#### (1) 窩洞の前処理

- ① 通法にしたがい、仮封材・仮着材を除去し、窩洞の清掃、防湿を行います。
- ② 「パナビア® V5 トゥース プライマー」を添付文書にしたがい窩洞に塗布して20秒処理後、乾燥します。

#### (2) ペーストの練和及び注入

「使用方法A (4)、(5)」にしたがい、窩洞内に薄くセメントを塗布します。

#### (3) 接着アマルガム修復

練和したアマルガム泥を添付文書にしたがって窩洞内に速やかに充填し、アマルガムの形態を整えます。

#### (4) 余剰セメントの除去、最終硬化及び仕上げ

「使用方法A (7)」と同様の方法でセメントを硬化させた後、通法にしたがい仕上げを行います。

### [使用方法に関連する使用上の注意]

① オペークは化学重合型レジンのため、最終硬化は化学硬化により硬化させてください。マージン部等、最表層については光硬化させることも可能です。

② 「パナビア® V5 トゥース プライマー」塗布面と接触すると硬化が促進されるため、接着操作は下表の操作時間以内に行うこと。また、一度に複数のラミネートベニアを接着する際は、1歯ずつ処置を行うこと。

「パナビア® V5 トゥース プライマー」と接触した場合の本品の操作時間及び硬化時間(37℃)

操作時間	60秒
硬化時間	3分

③ 「パナビア® V5 トゥース プライマー」塗布面と接触すると硬化が促進されるため、インプラントアバットメント、フレーム及び菌冠修復物の前処理に、「パナビア® V5 トゥース プライマー」を使用しないこと。

④ 光反応性の高い光重合触媒を配合しているため、接着操作時には口腔内へのデンタルライトの角度や距離を調整するなどの光量を下げる回避処置を行うこと。強い光量のデンタルライトが当たると硬化する場合があります。

⑤ セメントを築造窩洞内に填入する場合には、歯科用ペーストキャリア(レンソウ充填器)を使用しないこと。

⑥ 1歯に複数のポストを植立する場合、垂れたセメントが他の根管に流れ込まないようにすること。

⑦ 直接口腔内にセメントを塗布する場合は、交差感染を防ぐため、必ずポリ袋等の保護カバーでシリンジの全体を覆い、唾液・血液等が接触しないように注意してください。また、使用前にシリンジ、ミキシングチップ、ガイドチップを、使用後にシリンジをアルコール綿球で拭き消毒してください。

### 光照射に関する使用上の注意

① 本品の使用前に「歯科重合用光照射器について」を参考に使用する照射器で練和したセメントに光照射して硬化時間等を事前に確認すること。

② 照射口はできるだけ修復部位に近接させて、修復部位に垂直に保持し照射すること。また、硬化させる面積が歯科重合用光照射器の口径より大きい場合には、何ヶ所かに区分して分割照射を行うこと。

### 【使用上の注意】

#### (1) 使用注意

- ① 本品を仮着用セメントとして使用しないこと。
- ② 必要に応じてラバーダム等の防湿処置を行うこと。
- ③ 窩洞形成時に、露髄又は歯髄に近接した場合には、覆罩等の処置を行うこと。
- \*④ 歯髄保護、仮封・仮着にはユージノール系の材料は、使用しないこと。変色や硬化不良を起こす場合があります。
- \*⑤ 仮封・仮着材は完全に除去すること。タンニン(例えばHY剤として配合している松風社製品)、或いは酸化マグネシウムを配合の仮封・仮着材の除去が不十分な場合、変色する恐れがあります。
- ⑥ 過酸化水素水は接着強さの低下を招く恐れがあるので窩洞清掃に使用しないこと。
- ⑦ 硫酸鉄系の止血剤は本品を変色させ、接着強さの低下を招く恐れがあるので使用しないこと。

⑧ 塩化アルミニウム配合の止血剤を使用する場合は、最小限の使用に留め、被着面には触れないように注意すること。塩化アルミニウム配合の止血剤が被着面に触れると接着強さが低下する恐れがあります。

⑨ 窩洞内に残存したアマルガム又は裏層材は、本品の硬化を妨げるので、窩洞形成時に完全に除去すること。

\*⑩ 窩洞清掃が不十分な場合、接着強さが低下する恐れがあるため、唾液、血液等で被着面が汚れた場合は、「使用方法」欄に記載の方法にしたがい十分に清掃すること。

- ① 他の材料と練和して使用しないこと。
- ② 誤飲させないように注意すること。

#### (2) 重要な基本的注意

① 本品の使用により発疹、温疹、発赤、潰瘍、腫脹、かゆみ、しびれ等の過敏症状が現れた患者には使用を中止し、専門医の診断を受けさせること。

② 本品に対する過敏症の既往歴のある術者は、手袋等を用いて直接本品に触れないようにすること。また、本品に触れて過敏症状を起こした場合には使用を中止し、専門医の診断を受けること。

③ 本品が口腔軟組織や皮膚に付着することがないように、また目に入らないように注意すること。口腔軟組織や皮膚に付着した場合には、アルコール綿球等で拭き取り、多量の水で洗浄すること。また、目に入った場合には、ただちに多量の水で洗浄し、眼科医の診断を受けさせること。

④ 本品が付着した粘膜面は若干白くなることがありますが、モノマーの蛋白凝固作用による上皮組織への一過性の現象で、白化は短期間で消失します。患者に対しては、白化した部位に菌ブラシ等により刺激を与えないように説明してください。

⑤ 生活菌の象牙質にリン酸エッチング処理を行わないこと。象牙細管が過度に開口し、術後刺激を引き起こす可能性があります。


### 【保管方法及び有効期間等】

#### 【保管方法】

・本品は、2～8℃で保管し、直射日光、デンタルライト等の強い光が当たる場所に置かないこと。また、使用する際は室温に取り出して15分以上経過してから使用すること。

#### 【使用期限】

・製造日から36ヶ月。  
・本品は包装に記載の※使用期限までに使用すること。

※(例 Exp.  2024-03-31 は 使用期限2024年3月31日 を示す。)

### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元:

**クラレノリタケデンタル株式会社**

〒959-2653 新潟県胎内市倉敷町2-28

フリーダイヤル:0120-330922

販売元:

**株式会社モリタ**

〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18 TEL (06) 6380-2525

〒110-8513 東京都台東区上野2-11-15 TEL (03) 3834-6161

「カタナ」は株式会社ノリタケカンパニーリミテドの登録商標です。

「クリアフィル」、「パナビア」、「オキシガード」、「オートミックス」及び「アベンシア」は株式会社クラレの登録商標です。